

## 講演会・カンファランス等のご案内

### 北九州地区小児科医会のご案内

※10月まで中止の予定です。

#### 第51回北九州子どものこころ懇話会（第565回合同例会）

日時：2020年11月19日（木）19:30～21:00

場所：毎日西部会館

演題：「こどもの心の外来での面接法」

演者：医療法人翠星会 松田病院 理事長・院長 松田 文雄 先生

### 産業医科大学カンファランス・セミナー

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：10月22日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：発達検査・知能検査

演者：産業医科大学小児科 石井雅宏先生、福田智文先生  
柴原淳平先生、五十嵐亮太先生  
産業医科大学病院臨床心理検査室 岡田 都 先生  
加久 綾 先生

当日は現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

[j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp)までご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

※10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスは  
お休みです。

#### 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：11月9日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：O脚、X脚を契機に診断されるビタミンD欠乏性くる病  
ーリスク因子の検討ー

演者：産業医科大学小児科 島本 太郎先生、桑村 真美先生  
川越 倫子先生、山本 幸代先生

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：11月26日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題1：小児呼吸器検体における細菌叢解析

ークローンライブラリー法と次世代シーケンス解析の比較ー

演者：産業医科大学小児科 波呂 薫 先生

演題2：社会人大学院生活、国際学会発表の経験

演者：産業医科大学小児科 田中 健太郎先生

### その他講演会などのご案内

#### 第430回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2020年10月22日（木）19:00～

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「令和2年7月豪雨での球磨地区への災害派遣  
の経験(仮)」

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 中島 康貴 先生

演題2：「当院におけるCOVID-19の診療について(仮)」

演者：小倉医療センター 小児科

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

#### 第431回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2020年11月26日（木）19:00～

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「当センターにおける、新型コロナウイルス  
院内感染対策」

演者：北九州市立総合療育センター 小児科 友納 優子 先生

演題2：「療育センターにおける保護者支援  
～はじめてコースについて～」

演者：北九州市立総合療育センター 小児科 鈴木 聖子

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

## 保険診療メモ (202009)

### 低薬価薬剤 (175円以下の薬剤) の使用について

本年3月、診療報酬明細書 (以下レセプトと記す) の記載要領 (リンク先は下記) に関する通達が再度行われました。平成26年9月の保険診療メモで解説しましたが、通達の内容は当時とほとんど変わっていないものの相当期間が経ちましたので改めて解説いたします。

この通達によれば、「薬剤料に係る所定単位当たりの薬価が175円以下の薬剤の投与又は使用の原因となった傷病のうち健胃消化剤、鎮咳薬などの投与又は使用の原因となった傷病などは主傷病名あるいは副傷病名から判断して、その発症が類推できる傷病については傷病名を記載する必要はないものとする。ただし強心剤、糖尿病薬などの投与又は使用の原因となった傷病名についてはこの限りではないこと。」とされています。

リンク先; 「診療報酬請求書等の記載要領等について」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000613534.pdf>の医・歯・調18-19ページウ)

低薬価であっても傷病名の記載を要する薬剤として、「強心剤、糖尿病薬など」と記載されていますが、具体的には、  
 ①211強心剤 (以下薬剤の前の数字は区分番号)、  
 ②214血圧降下剤、  
 ③217血管拡張剤、  
 ④218高脂血症用剤、  
 ⑤245副腎ホルモン剤、  
 ⑥396糖尿病用剤が挙げられます。  
 強心剤・糖尿病用剤の対象疾患は心疾患及び糖尿病であり、いずれも本来主傷病名もしくは副傷病名としてレセプトに記載されるべきものです。他の4剤も薬効が顕著であり、しかも長期に使用され、対象疾患の病態などから検査などを定期的に行う可能性が高く、傷病名の記載を省略するべきではないと思われま

低薬価薬剤とは上記の6系統以外の薬剤で、投薬 (内服、頓服、外用)、注射 (皮内、皮下又は筋肉内注射、静注、点滴静注) に際して、請求点数が17点以下の総称です。小児科でよくみられる散剤の混合処方など、他の薬剤と服用時点が一のため合剤によって請求されている場合は、その合剤の薬価合計が17点以下であるか否かが判断基準です。同じレセプト上で、同一薬剤でも単剤の場合は17点以下であるが、他の薬剤との混合処方では17点を超える場合があります。この場合は17点を超えている合剤分のみが審査対象となります。

また、適応症に関する事項以外については、低薬価薬剤であっても審査対象となります。例えば、過量 (過剰) 投与、禁忌、投与日数の超過などが挙げられます。ザイザルシロップやホクナリンテープなど年齢によって投与量が決められているにもかかわらず過量投与されている場合などが該当します。また、禁忌のために査定となる薬剤では、2歳未満児へのプリビナ液、てんかん及びその既往歴のある患者へのザジテン、12歳未満の小児へのコデインリン酸塩を含むフスコデ配合シロップなどが挙げられます。低薬価であっても抗生剤を必要以上に長期投与されている場合も査定の対象となります。

なお、内服や注射以外で処置・検査などに使用された場合には低薬価であっても冒頭の取り扱いには該当しません。50%グリセリン浣腸を処置で使用された場合には適応傷病名が必要です。

(福岡県小児科審査員連絡会)

## 役員会報告 (10月1日：木曜日)

## 新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

## 10月1日議事録

抗原検査等に関して今後どういう様に行われていくのか、皆様の意見を聞きたい。まず、有門先生に行政検査、集合契約など小児科医がどうしたら良いかなど意見をお聞きしたい。

誤解がないように確認しておきますが、今回の集合契約は絶対にしてくださいというわけではない。自施設で検査したいという意見と、保健所での検査が制限されていたことなど、PCR検査センターや帰国者接触者外来の不便なところ、待ちがあるなどがあり、検討された。このため、特に無理して何がなんでもというわけではなく、自分のクリニックにあった形で使ってもらいたい。特に小児科においては、動線を分けるなどもなかなか難しいことも理解しています。

当初の行政の説明では、抗原キットは唾液ですというように受け取られた方が多かったようでした。現状では、唾液でできるわけではないというところがあり、そのあたりの差が出てくるかもしれません。検査を請け負う会社によって異なるところもあります。未症状の妊婦に関しては唾液で行われることになっています。綿のようなものを2分ほど口腔内にとどめておき、手で取り出してスピッツに入れるというような形になっている。こういったことがどこでもできれば、(小さい子は誤嚥のリスクがあるので難しいところはあるが、) 大きい子に関しては小児科でもできるというメリットがあると思われませんが、いかんせん対応が難しい状態である。

唾液検査の中でできそうなものがあれば、検討していただくことにはなってくるが。また、鼻腔拭い液も対象として上がり始めている。(本人もしくは保護者、医療者がやるなど)

国の指針が出ないとわからないが、新型コロナウイルス感染症が少ないとよいが、インフルエンザが増えて、発熱患者が増えてきたときに、どの様になっていくのか。無理に抗原検査をすることはない。ということであるが、クリニックは発熱外来をどの様にやっていくか。去年はあまりインフルエンザが流行らなかったのが良いが。帰国者、接触者外来は継続して行っており、小倉医療センターで行ってもらっている。これは継続してもらえるとということにはなっている。大きい子に関しては、PCR検査センターでも対応できるでしょう。PCR検査センターは今まで通り続けられていく予定である。

開業医で、インフルエンザ検査をするかどうか。ガイドラインが近々にでるだろうと。感染症学会ではガイドラインで振り分けが出ているようではある。

インフルエンザとコロナウイルスのどちらを疑うのか、インフルエンザのほうが疑わしいのか。コロナが疑わしいのかというところが、大事になってくるし、周囲の流行がないときに、小児にコロナウイルスの感染を疑うのかというところを問診等をしっかりとって判断していくことが大切である。

今後、どこかの学校で出た等の場合に、その校区の児童に対してやるべきかどうかを考えるか？

過去、小中学校で、生徒同士がうつったという方向がありますか？通常の学校生活の中でうつったという事例は今のところなく、校外での接触、あそびなどのほうが多いようである。不思議ではある。

9月7日の横浜で発生した例、小学校で15人が発生した際に、学校の先生で先に見つかって、その後に小学生がでてはいるが、どちらが先にうつったのかもはっきりしていない。後で出た人たちは無症状だったということである。ただ、家族には発症者はいないので、学校内での感染の可能性が高いが、先生からなのか、子供同士なのかというところは言えないものの、先生からのほうが可能性は高いかもしれない。

5人感染者がいると、1人がスーパースプレッダーになると言われているものの、誰がなるのかはわからない。10人陽性者がいて、1,2人が感染をうつしている。ただ、それが行動範囲によるものなのか、ウイルスの問題なのかははっきりしない。それに対して、インフルエンザは放射状に広がっている感じであるので、そのあたりはコロナとは違うのであろう。

抗原検査による情報：

神菌先生のメーリングリストへの投稿を参照ください。

その他、神戸では抗原検査陽性の方に、他のウイルス(エンテロウイルス、ライノウイルス)が見つかっている。こういったことから、抗原検査に頼ってよいかどうかなど、悩ましいところがあり抗原検査で陽性の人をPCR検査陽性と一緒にしてよいのかといった問題が(隔離の際に)出てくる。北九州でも抗原陽性で、PCR陰性という例もあった。そういったときに非常に悩ましい。そのあたりは、抗原検査の限界であろう。

濃厚接触者で、コロナが疑われるような状態で、救急病院に運ばれたときに先に抗原検査をするのは有用かもしれないが、前提として、周りにいないときに、抗原検査で陰性で大丈夫とは言えないことを踏まえて、検討していただかないといけない。

## 役員会報告（10月1日：木曜日）

## 新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

ただ、PCR検査であろうが、抗原検査であろうが、一般の人は安心してしまう。その上、PCR検査でさえも、偽陽性はあるわけなので。両方否定できないときにはどうしようかといった問題がでてくる。

感染症として、熱の多い時期にはPPEをしたままというのは、感染を広めることもありますので、つけっぱなしは良くはないので、診察時にはご注意ください。また、喉の診察をする意味では、（たとえ、予防接種などであっても）マスク、フェイスシールドをしてもらったほうが良いでしょう。

遠賀中間での現状報告：

11月から遠賀中間も、医師会としてセンターを設置することになりそうである。まだ何も案は聞いていないが、従事するDrは医師会病院の医師が主で、会員の先生方にも手伝ってもらう予定にはなっている要ではあるが、はっきりとは聞いていない。また、小児に関しては、診療ブースに入ってしかできないかとおもっている。

インフルエンザワクチンは、岡垣町は小児の補助あり。すべて小児と地域によっては、妊婦もとなっている。水巻町は償還払いで、岡垣はクーポン発行されているようです。

北九州は、高齢者は優先ということにはなっています。北九州市は子供への補助は今のところ（10月1日現在）出ていないが、どうなっていくかは誰も知らない。

高齢者では、早くうっても流行期までワクチンの効果が持つのが心配である。

Q：保健所で検査方法の違いにより分けてカウントされたりしているか？

A：公表するときには一緒に説明している。保健所では、検査法は分けて記録はしている。

Q：検査キットの中に、コロナとインフルエンザを同時に検査できるものもあると聞いたが、行政検査と、通常検査とを算定するかはどのようにするか。

A：分けて算定するかもしれませんが、はっきりとはわかりません。その後の見通しもはっきりはしていません。コロナウイルス検査自体は包括からは外れており、集合契約になると、行政検査としてなされることになります。

Q：インフルエンザが陽性であれば、コロナは陰性と言ってよいか？

A：3-4%は混合感染もあるでしょう。

Q：小児のインフルエンザワクチンの接種回数は？

A：国内での、1回の接種での有効な獲得されたという報告はないと思われる。アメリカでは、毎年接種していれば、1回でとあるので、ワクチン足りないから、そうして乗り切ってしまうものもあるが、はっきりとしたものはない。例年通りではあるが、足りなくなるか…。

## 役員会報告 (10月1日：木曜日)

## 協議事項・報告事項

## 1) 報告

2021年1月17日に第57回北九州地区小児科医会総会  
特別講演；『新型コロナウイルス感染症へのこれまでの対応  
と今後について』をシンポジウム形式で行います。

演者：賀来典之先生(九州大学病院救急救命センター)  
有門美穂子先生(北九州市保健福祉局)  
神藺淳司先生(北九州市立八幡病院)

来賓は招待しません。

総会後の懇親会は中止します。

## 委員会報告

## 1. 学術委員会報告：白川嘉継

10月15日は中止となりました。

11月19日 子どものこころとの合同例会 小倉医師会館  
「子どものこころの外来での面接法」

広島市 医療法人翠星会 松田病院 松田文雄理事長・院長

12月17日 塩野義製薬 インフルエンザ関連

佐賀大学 青木洋介先生

1月17日 総会

2月18日 小倉医師会館 サノフィ

日本感染症学会理事、鹿児島大学微生物学 西順一郎教授  
演題未定

3月18日 小倉医師会館 MSD

長崎大学 森内 浩幸教授

「Heralding and Hesitancy~新たな定期予防接種ロタウイルス  
ワクチンの予告とHPVワクチンへの躊躇い」

※3月は会場での講演会が困難な場合、WEB講演会、  
ZOOM等何らかの形で、開催します。

4月15日予定 小倉医師会館 ノーベルファーマ株式会社  
大阪大学大学院 連合小児発達研究科 谷池雅子教授  
(仮) 子どもの睡眠

5月20日予定 小倉医師会館 ミヤリサン製薬

九州大学病院 心療内科 須藤信行教授の

(仮) 脳腸相関 腸内細菌が身体と精神に及ぼす影響

11月予定 第一三共

インフルエンザ関連

福岡歯科大学 岡田賢司 教授

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。